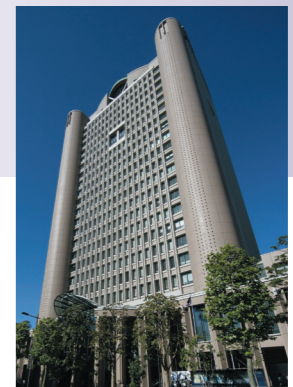




MEIJI BUSINESS SCHOOL

明治大学
ビジネススクール
2025



明治大学
ビジネススクール

専門職大学院グローバル・ビジネス研究科

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

Email: guroken@mics.meiji.ac.jp

<https://www.meiji.ac.jp/mbs/>



ACCESS

■御茶ノ水駅より徒歩3分、神保町駅より徒歩5分

専門職大学院
グローバル・ビジネス研究科

MBA



MBSの理念と目的 (人材養成その他教育研究上の目的)



本研究科は、経済・社会のダイナミズムの高揚のため、専門的な知識・スキル、情報分析能力、価値創造力、広い視野及び高度な倫理感覚、リーダーシップ、グローバルな視点を備え、経営者や上級幹部として組織のマネジメント全般を担うジェネラルマネージャーの養成を基本理念としている。加えて広く社会からの負託に応えるべく、併せて次のようなビジネス・プロフェッショナル人材の養成にも努める。

- ・ファミリービジネス発展のための経営者、後継者及びサポート人材
- ・新規事業や第二創業を含むスタートアップビジネスを担うイノベーション人材

その人材養成目標のために企業・組織マネジメントに加え、ファミリービジネス、スタートアップビジネスに係る研究を行い、学生と教員の共創の場、学生の実務と理論の自主的な学びの場、キャリアチェンジの場及びビジネスマッチングの場を提供する。

研究科長挨拶

急激かつ劇的な変化に直面する世界、社会環境下では、予測可能性と管理可能性が著しく低下します。変化の時代においては、すべてのビジネスパーソンは一つ確実なことがない中での意思決定を日々迫られる事になり、まさに、変化に応じた学び直し、リスキリングの必要性に迫られています。リスキリングはIT技術の習得を意味するのではなく、最先端の専門知識に基づく問題発見・解決能力、的確なコミュニケーション力、時代に即したリーダーシップ力等を総合して発揮される高度なマネジメント力の獲得こそが今求められるリスキリングです。

明治大学グローバル・ビジネス研究科(MBS)は、この激動の世界において、的確に意思決定し、これを実行できるビジネスリーダー(ジェネラルマネジメント人材)を育成することを目指しています。私たちの考えるジェネラルマネジメント人材は、高潔な倫理観をベースに該博な知識と高度な情報収集・分析力により、状況に応じた的確な意思決定が出来、これを様々なステークホルダーに伝える事により、共に実行できるマネジメント力を備えたプロフェッショナルであると考えます。

これに加えて、二つのクラスターを設けターゲットを絞った人材育成も行なっています。一つ目はファミリービジネス経営人材の育成です。これは、我が国の大半を占める中堅中小企業、とりわけファミリー経営を行なっている企業の後継者ならびに経営者の右腕となるべき経営支援人材を指します。このような人材に必要なことは、大企業を主たる対象として構築された従来の経営理論の範疇を超え、ファミリービジネス特有の経営課題に向き合う能力も身につけることです。我が国経済の根幹を支える中堅中小企業、ファミリービジネス企業が健全に発展することこそが我が国にとって極めて重要であると考えています。

二つ目はスタートアップに力を発揮する人材(ビジネススタートアップ人材)の育成です。既存事業が賞味期限を迎える中、我が国企業も多くにとって新たな事業の創造は急務と言えます。私たちはとりわけ企業内における新事業開発こそが重要であると考えています。もちろん、新たに企業を起こす起業家人材の育成も視野に入れています。MBS修了生の起業比率は高く、多くのOBOGがベンチャー企業の経営者として活躍しています。

MBSでは後述する5つの専門領域を横断的に学ぶことで、ジェネラルマネジメント人材、ファミリービジネス経営人材、ビジネススタートアップ人材の育成を行っています。学生は必修5科目を学ぶとともに、170科目を超える多彩な科目から自らの指向性に合わせて幅広くかつ専門に特化した学びができます。

さらに、グローバルな視点を持ちリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指し、英語のみでの履修・修了が可能となるよう英語科目の充実とともに、海外のビジネススクールと連携したプログラムも提供しています。多くの学生が在学中に海外研修を受講しているのも特徴の一つでしょう。こういった一連の取り組みは、国際的にも認められ、ビジネススクールの国際認証(EFMD Accredited MBA)の取得に至りました。MBSの教育水準が世界標準に達していると評価されました。

最後に、MBS修了後について述べたいと思います。MBSの修了生は、変化に対応して正しく組織を導くことが求められているだけではありません。むしろ、率先して社会をより良い方向に導く、社会変革リーダーとしての役割も求められています。ただし、この役割は一人だけで担うものではないとも思います。明治大学やMBSが誇るOBOGの強いつながり、ネットワークを在学中から実感することができると思います。ゼミの仲間、後述する部活動、講義をともに受ける仲間など、多彩な仲間と共に学べることも魅力の一つです。もちろん、教職員も仲間であることは言うまでもありません。

このMBSファミリーに加わり、未来をともに作っていきませんか？その過程を通じて、新たな自分が発見できることでしょう。一人でも多くの方が仲間になって頂けることを心より願っております。

研究科長
野田 稔



明治大学
ビジネススクール

CONTENTS

MBSの理念と目的 (人材養成その他教育研究上の目的)	1
研究科長挨拶	2
■ PART 1 / 研究科概要	3
■ マネジメント領域 ■ マーケティング領域 ■ ファイナンス・リアルエステート領域	
■ ビジネス・ロー領域 ■ アカウンティング領域	
■ PART 2 / 教員紹介	10
■ PART 3 / 国際化活動	13
■ PART 4 / MBS ネットワーク	15
■ PART 5 / 施設・設備案内	17
■ PART 6 / 入学試験情報・在籍者データ	18
■ PART 7 / 寄附講座・奨学金	19
■ PART 8 / 科目等履修生制度	20
■ PART 9 / 各種資格試験制度	21
■ PART 10 / 修了生メッセージ	22

研究科概要

パートタイムMBA (平日夜間・土曜開講)

名称	専門職大学院グローバル・ビジネス研究科 グローバル・ビジネス専攻
学位名称	(和文) 経営管理修士 (専門職) (英文) Master of Business Administration
授業時間帯	平日 6時限目18:55~20:25 7時限目20:30~22:00 土曜日 1時限目9:00開始~ 6時限目20:40終了 働きながら通学することができるよう、平日夜間 と土曜日に授業実施

入学日	4月1日または9月20日 (p.18参照)
修業年限	2年
授業期間	セメスター科目: 週1コマ (平日15週または土曜日14週) クォーター科目: 週2コマ連続 (平日8週または土曜日7週)
修得単位	1科目2単位

MBSカリキュラムの特色 (ジェネラルマネージャー育成)

(1) 必修科目群

必修科目群では、ジェネラルマネージャーとして持つべき幅広い経営に関する基礎知識及びスキルを養い、専門科目を履修するための基盤を構築します。修了までに以下の5科目(10単位)の修得が必要です。4つの基礎論はそれぞれ英語でも修得が可能で、英語運用能力の向上に役立てることができます。

・マネジメント基礎論 / Fundamentals of Management
・マーケティング基礎論 / Fundamentals of Marketing
・アカウンティング基礎論 / Fundamentals of Accounting
・ファイナンス基礎論 / Fundamentals of Finance
・Global Business Studies

・ビジネスデータ解析
・AI活用とディープラーニングの基礎
・自己表現(プレゼンス)
・グローバル・ビジネス研究(海外研修など)

・マネジメント領域
・マーケティング領域
・アカウンティング領域/税法
・ファイナンス・リアルエステート領域
・ビジネス・ロー領域

(2) 共通科目群

共通科目群では、計量的・制度的・行動論的な分析手法に関する科目を設置し、いずれの学問領域においても共通して必要とされる知識を醸成することを目的としています。海外のビジネススクールや現地企業を訪問するグローバル・ビジネス研究(海外研修科目)もこれに含まれます。

・ファミリービジネス・クラスター
・スタートアップビジネス・クラスター

・論文演習Ⅰ(在籍3学期目)
・論文演習Ⅱ(在籍4学期目)
・専門職成果報告書(修士論文)の作成

(3) 専門科目群 (5つの専門領域)

5つの専門領域における専門的な知識・スキルの高度化や、企業経営や業務に必要な最新の知識や技術を習得することを目的に専門科目群を設置しています。演習科目やケース・スタディの科目では、グループ討論や個別指導を通じて専門領域でのプロフェッショナルな意識を醸成し、問題発見・解決能力を養います。また、英語による授業科目を約60科目設置し、英語運用能力を高めることにも注力しています。

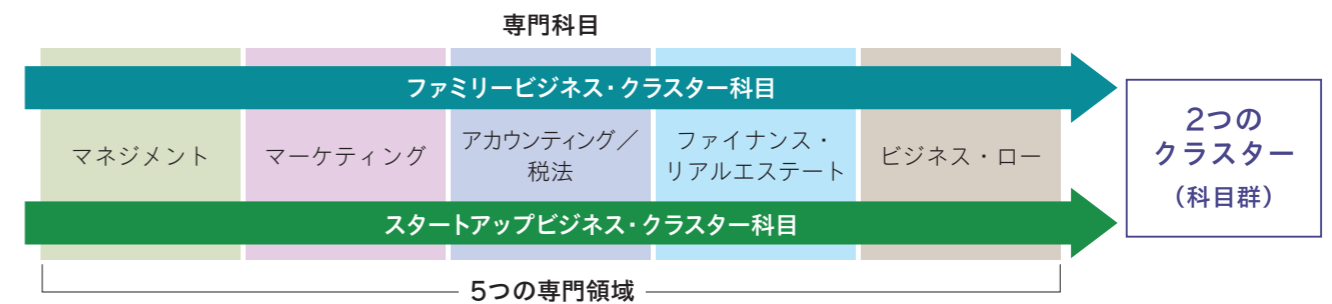
(4) 修了要件/修士論文

経営管理修士(専門職)の学位(MBA)取得のためには、46単位以上の修得に加え、専門職成果報告書(修士論文)を提出し、審査に合格することが必要です。「論文演習Ⅰ・Ⅱ」(計4単位)を2年次に履修し、指導教員の指導のもと、MBSで学習の集大成として論文を執筆します。論文は博士後期課程進学を視野に入れた「理論志向型」だけでなく、「ビジネス・モデル型」、「ケース研究型」など多様な形態が可能です。

2つのクラスター (ファミリービジネス & スタートアップビジネス)

MBSでは、従来の学問分野という概念に加え、分野横断的な履修モデルである「クラスター」の概念を導入しています。現在は、「ファミリービジネス」と「スタートアップビジネス」の2つのクラスターをスタートさせています。これらの履修モデルに沿って履修計画を立てることで、学問領域を超えて、それぞれのクラスターに関する知識を体系的に習得することが可能です。

※クラスター履修モデルは学生の科目選択の参考となることを目的に導入しています。いずれかのクラスター履修モデルに沿って履修することは必須ではありません。



■ ファミリービジネス・クラスター履修モデル

科目群・領域	科目名
共通科目	企業倫理
ファイナンス・リアルエステート	企業資金マネジメント
ファイナンス・リアルエステート	ESG投資とESG経営
マネジメント	中小企業論
マネジメント	中小企業経営概論
マネジメント	ファミリービジネスと企業家精神
マネジメント	ファミリービジネスと人材戦略
マネジメント	ファミリービジネスと経営計画策定
マネジメント	経営組織論
マネジメント	組織行動論
アカウンティング	企業分析
アカウンティング	租税法概論
アカウンティング	中小企業の会計
マーケティング	ブランド価値経営
マーケティング	流通マネジメント (ファミリービジネス)
ビジネス・ロー	ビジネスロー概論

■ スタートアップビジネス・クラスター履修モデル

科目群・領域	科目名
共通科目	企業倫理
ファイナンス・リアルエステート	企業資金マネジメント
ファイナンス・リアルエステート	ESG投資とESG経営
マネジメント	スタートアップビジネスⅡ
マネジメント	中小企業論
マネジメント	ベンチャーのエコシステム
マネジメント	ビジネスイノベーション
アカウンティング	企業分析
アカウンティング	戦略とマネジメント・コントロール・システム
アカウンティング	戦略とマネジメント・コントロール・システム(演習)
アカウンティング	租税法概論
アカウンティング	中小企業の会計
マーケティング	e-マーケティング
マーケティング	デザインシンキング
ビジネス・ロー	ビジネスロー概論
ビジネス・ロー	企業活動と知的財産

5つの専門領域 **1**

マネジメント領域

概要

企業家精神・企業倫理や、異文化関係を視野に置いた人的資源管理、状況に応じた組織変革・経営管理、新しい知識創造といったマネジメントに関する課題に対応できるマネージャーの育成を目指します。また、既存の理論や発想から脱却し、ブレークスルーを行える実践的手法や思考法といった、マネージャーに必要な能力を涵養することを目指します。

授業科目

ファミリービジネス概論
 スタートアップビジネスⅡ
 経営組織論
 組織行動論
 HRM・人材育成論
 新興国市場のマネジメント 等

論文演習 (ゼミ)

野田 稔 ゼミ

組織・人事・人材育成・組織開発を中心に幅広くマネジメントに関する研究を行っています。人に関するマネジメントを研究し、将来の自身のイノベーションにつなげることを目標に取り組んでいます。メンバー内のディスカッションを通じて、お互い刺激あい、成長できるゼミです。



藤岡 資正 ゼミ ※2025年度在外研究のため未開講（予定）

社会科学としての経営学の知の系譜を紐解き、深掘りし、新たな知の地平線を描いていくための基礎的なトレーニングを積みながら、海外ビジネススクールとのセッションやフィールド研修などを通じて理論と実践を架橋できる力を醸成していきたいと思えます。人数の多いゼミですので、助け合って楽しんで学んでいきましょう。



岡 俊子 ゼミ

M&Aに30年以上携わるなかで、M&Aを成功させることが難しいことを肌で実感してきました。M&Aの成功とは、M&A後に企業価値をあげること、M&Aの目的を達成することです。成功するM&Aを増やすための研究と一緒に取り組みたいと思っております。



許 佑旭 ゼミ

My seminar focuses mainly on issues regarding management, in particular in the fields of family firms, multinational enterprises and human resource management. Students will learn how to conduct sound research as well as to improve their analytical skills.



沼田 優子 ゼミ

このゼミでは、国内外の企業の経営戦略に関わる研究を行います。30年以上にわたり、日米の企業の経営戦略を研究してきましたので、論文執筆言語は日英どちらでも構いません。学術と実務、日本と海外の良いところをそれぞれ学ぶことを目指します。皆様には是非、これらの橋渡しができるような人材になっていただきたいです。



安達 幸裕 ゼミ

ファミリービジネス（大中小）、中堅中小企業のマネジメントに関する研究を行います。経営者の企業家精神や組織変革に貢献できるマネージャーの育成などを中心に、戦略策定・実行について考えていきます。理論と実践、主体者と支援者、際（規模、地域、学問等）を視座にメンバー全員が刺激しあえるゼミを目指します。



5つの専門領域 **2**

マーケティング領域

概要

急激に変化する企業環境に柔軟に対応しうる能力を備えたマーケティングの専門職業人育成を目指し、消費者の反応過程や態度変容の予測対応、企業間取引における管理、流通過程の全体像の把握能力、企業成長のための戦略マーケティング策定、eマーケティングの進展など実務に即した理論とスキルを学びます。

授業科目

マーケティング・コミュニケーション
 サービス・マーケティング
 ヘルスケア・マーケティング
 ブランド価値経営
 流通マネジメント（ファミリービジネス）
 ケース・スタディⅠ・Ⅱ（マーケティング） 等

論文演習 (ゼミ)

首藤 明敏 ゼミ

ブランド戦略、事業戦略、マーケティング戦略を主なテーマとして、理論研究に加え、自身のビジネス課題の解決や新規事業プランなど、理論と実務の両面の課題に取り組んでいます。ゼミでは、個人の論文内容に注力するだけでなく、相互に支援することで、メンバー全員が納得できる論文作成を目指します。



橋本 雅隆 ゼミ ※2025年度末退官（予定）

事業システムを、サプライチェーンマネジメント（SCM）とライフサイクルサポート（LCS）の両面から統合的にとらえる最新の手法で、既存ビジネスの課題分析やビジネスの進化を研究します。



戸谷 圭子 ゼミ

当ゼミではステークホルダー間（サプライヤ・顧客・従業員・地域住民など）との価値競争プロセスに関連する定性的・定量的アプローチの研究を行います。サービス・マネジメント、サービス・マーケティングと呼ばれる分野になりますが、対象業種は第三次産業に限定されず、製造業のサービス化も含まれます。ゼミ生や修了生間のインタラクションを重視し、実務に直結し、かつ、科学的な論文の作成を目指します。



5つの専門領域 **3**

ファイナンス・リアルエステート領域

概要

コーポレート・ファイナンスや財務戦略の専門性をはじめとした企業ファイナンスの科目、金融リスク・マネジメントなど銀行・保険関係、金融市場・金融商品などの知識、金融工学を基礎とした金融価格理論や派生商品や証券化に関する科目、不動産ファイナンス・証券化に関する科目、企業不動産の有効利用法、不動産市場分析に関する科目を設置しています。金融・不動産に関連する多様な専門性を身に付けたマネージャー、アナリストの育成を目指します。

授業科目

コーポレート・ファイナンス
リスク・マネジメント
企業資金マネジメント
不動産ファイナンス論
不動産実務・税制（ファミリービジネス）
企業不動産（CRE）戦略・サービス論 等

論文演習 (ゼミ)

青沼 君明 ゼミ ※2024年度末退官（予定）

研究テーマは、抽象的なものではなく、データ解析、モデルによる価値評価など、客観的に数値で表すものを対象としています。理論を実践で活用する力を身につけたい学生の方にはおすすめのゼミです。



王 京穂 ゼミ

少数精鋭、熱心な先生の論文指導、ファイナンス・リアルエステート領域に拘らない指導領域、アジアに及ぶ強いネットワークが特徴です。ゼミを通じてビジネスストーリーを描く能力が身に付き、ゼミ生はあらゆるビジネスシーンで活躍できることを約束します。ぜひ王ゼミと一緒に学びませんか？



山村 能郎 ゼミ

「価値評価」をキーワードに、ファイナンス・リアルエステート領域だけではなく経営全般を対象にした研究を通して論理的思考を身に付けるとともに情報・データを駆使した実証的スキルを身につけることを目的としています。理解ができるまで丁寧に指導します。



サントス・ミゲル ゼミ

Primary fields of research in this seminar include asset valuation and management and corporate liquidity management. Other topics pertaining to finance and financial management, ranging from value in healthcare to the history of finance and financial management in Japan, may also be pursued in this seminar.



村木 信爾 ゼミ

ESG、グローバルビジネス、事業承継等を含む企業経営と不動産のかかわり、不動産投資、評価、街づくり分野など、講師の幅広い人脈も使いながら幅広く学ぶことができます。ゼミ生の問題意識を重視、課題の設定→解決策の提示（仮説）→論証という構成で論文を作り上げていきます。



5つの専門領域 **4**

ビジネス・ロー領域

概要

契約、知的財産管理、建物や不動産の売買など、ビジネス・ローに関する科目を設置しています。ビジネス・ローの基礎や具体的なケース・スタディを通じて法的な思考方法を学ぶことで、企業が直面する法的課題に対する理解を深めます。また、法的課題の解決策を検討することは、企業経営上の法的リスクを極小化することにつながるため、法務担当者のみならず、管理者・経営者や企業コンサルタントにとっても有益と言えます。

授業科目

ビジネス・ロー概論
ケース・スタディ民法
相続法の基礎
労働法の基礎
企業活動と知的財産
事業戦略と知的財産マネジメント（基礎）等

論文演習 (ゼミ)

熊谷 健一 ゼミ

企業活動におけるブランド、コンテンツ等の知的財産の役割、企業活動のグローバル化に伴う知的財産の保護、知的財産の保護と競争法（独占禁止法）との関係等、企業活動を取り巻く諸問題について、幅広い視野から研究を行うことを目指し、論文作成の基礎から指導を行います。



中山 知己 ゼミ

契約法・物権法・担保物権法などの民法を対象とする具体的な問題について各人が持つ疑問や課題を研究テーマとして検討を行います。他人の研究テーマも相互に議論しながら刺激し合い、問題意識を鍛え上げることを目指します。



各領域の授業科目一覧・
詳細はホームページへ

<https://www.meiji.ac.jp/mbs/curriculum/timetable.html>



アカウンティング領域

概要

会計基準の国際化や金融・資本市場のグローバル化に対応した科目を設置しています。新しい会計基準に基づいた企業評価の方法、外部投資家の意思決定問題や経営戦略遂行上の会計情報の活用法、国際課税のあり方、グローバルな会計基準の在り方などを学びます。また、財務・会計的な視点から、CFOに必要なノウハウや中小企業経営、ベンチャー経営について学習できます。

授業科目

- 財務会計論
- 企業分析
- 非営利組織の会計(演習)
- タックス・マネジメント応用
- タックス・マネジメント国際
- ケース・スタディI(アカウンティング)

論文演習(ゼミ)

山口 不二夫 ゼミ(会計)

研究対象は一般企業に加え、病院、学校法人、自治体などの非営利組織も含めています。財務データをもとに企業や組織の分析、評価、提言などを実践できるゼミです。企業評価だけでなく市場を安定化させる会計ルールは何かを考えています。



大野 雅人 ゼミ(税法) ※2025年度末退官(予定)

ゼミ生は、租税法の解釈や制度についての疑問を出発点とし、立法の趣旨目的、裁判所による解釈、先行研究等をリサーチし、教員や他のゼミ生との議論も踏まえて、論文を作成していきます。お金をめぐる国家と納税者の攻防ともいえる、租税法の本質に迫ることを目標とするゼミです。



鈴木 孝直 ゼミ(税法)

ゼミ生は、自身が疑問を持った主に税法解釈に関する課題について広くリサーチし、他のメンバーとも議論して問題点を掘り下げながら、論文を作成していきます。複雑さを増す税務上の判断について、相互に支援・刺激し合って理解を深めます。



池田 義典 ゼミ(税法)

租税法の論文作成では、多くの情報(立法の趣旨、当局と納税者による実務、判例、先行研究など)を収集・分析するとともに、自分の問題意識を、分かりやすく説得力を持って展開していくことが重要になります。これらを実現するためには、先行研究と自分の主張を整理して発表し、他のゼミ生と議論していくことが最も有効です。楽しく自由闊達に意見交換することを目指したゼミです。



専任教員

野田 稔

専任教員 研究科長 マネジメント領域



経歴 1981年一橋大学商学部卒業。株式会社野村総合研究所入社。1987年一橋大学院修士課程修了。野村総合研究所復帰後、経営戦略コンサルティング室長、経営コンサルティング部部長を経て2001年3月退社。多摩大学経営情報学部教授、株式会社リクルート新規事業担当フェローを経て、2008年4月より現職。リクルートワークス研究所特任研究顧問を兼任。著書：『組織論再入門』(ダイヤモンド社)、『中堅崩壊』(同社)など多数。

首藤 明敏

専任教員 専攻主任 マーケティング領域



経歴 博士(経営管理)。一橋大学卒業後、(株)博報堂でマーケティングプランニング業務に従事。慶應義塾大学大学院経営管理研究科修了、IESE国際プログラム単位取得後、博報堂の研究開発業務に従事。(株)博報堂ブランドコンサルティング(現博報堂コンサルティング)を創業、代表取締役社長に就任。多数のコンサルティング実績を経て、同社を退任。慶應、早稲田等、国内ビジネススクールの客員教員を歴任。当校教授陣による『ファミリービジネス:MBA講座』の編集責任者。

鈴木 孝直

専任教員 アカウンティング領域(税法)



経歴 慶応義塾大学商学部卒業後、国税庁に入庁。税務署長、長崎大学経済学部・同研究科助教授、国税局局長、OECD租税委員会シニア・タックス・アナリスト、国税庁調査課長、国税庁法人課税課長、税務大学校研究部長等を歴任。その間、複数の大学院で非常勤講師兼務。2018年7月から2020年8月まで税理士試験員。ハーバード大学国際租税講座修了。2021年4月から現職。

藤岡 資正

専任教員 マネジメント領域



経歴 オックスフォード大学サイド経営大学院博士課程(D.Phil.in management studies)及び修士課程修了(Msc. in management research)。ノースウェスタン大学ケロッグ経営大学院客員研究員、チュロロンゴン大学サシン経営大学院エグゼクティブ・ディレクター、MBA専攻長、経営諮問委員を歴任。現在、サシン日本センター所長、複数企業の社外取締役、アジア市場経済学会理事などを兼務。著書・論文多数。

岡 俊子

専任教員 マネジメント領域



経歴 1986年一橋大学卒業。1992年米国ペンシルベニア大学ウォートンスクール経営学修士(MBA)。1986年に等松トウショロコンサルティンクに入社後グループ内異動を経て、アビーム&M&Aコンサルティング代表取締役社長CEO、経済産業省産業構造審議会委員などを歴任。現在は、ソニーグループ、ENEOSホールディングス、日立建機、ハピネット、JICの社外取締役を勤める。2004年から本研科兼任講師。2021年から現職。著書：『資本コスト入門』(中央経済社)、『IM&AIにおける第三者委員会の理論と実務』(商事法務)など多数。

許 佑旭

専任教員 マネジメント領域



経歴 Sean obtained his B.B.A. from Meiji University, and both M.A. (in Organisation Studies) and Ph.D. from Warwick Business School, UK. He has held positions at the University of London (SOAS), the University of Wales, the University of Oxford, the University of Tsukuba, International University Japan and Rikkyo University.

沼田 優子

専任教員 マネジメント領域



経歴 東京大学経済学部卒、一橋大学大学院国際企業戦略研究科博士後期課程修了、博士(経営)。野村総合研究所、NRIアメリカ、野村資本市場研究所、野村證券、明治大学国際日本学部、帝京平成大学を経て2023年より現職。いちよし証券社外取締役。日米の金融機関の経営戦略を研究。著書(共著)に『IFAとは何者か：アドバイザーとプラットフォームのすべて』金融財政事情研究会、2020等がある。

安達 幸裕

特任教員 マネジメント領域



経歴 一橋大学大学院法学研究科修士課程修了。法学修士、MBA、MOT取得。政府機関勤務を経て2020年3月まで三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)勤務。長年多数の企業経営支援に従事し、コンサルティング事業本部執行役員を退任。複数の大学で非常勤講師兼務。著書、論文、講演多数。

橋本 雅隆

専任教員 マーケティング領域



経歴 早稲田大学理工学部工業経営学卒業後、株式会社三菱銀行、東京都商工指導所を経て、明治大学大学院経営学研究科博士前期課程修了。横浜商科大学、目白大学を経て2015年4月より現職。明治大学博士(商学)。この間、一橋大学客員教授を歴任。

戸谷 圭子

専任教員 マーケティング領域



経歴 京都大学経済学部を卒業後、都市銀行、コンピュータ企業を経て、1999年コンサルティングファーム(株)マーケティング・エクセレンスを設立。筑波大学博士(経営学)。同志社大学等を経て、現職。現在、(株)新日本科学、キュービーネットホールディングス(株)社外取締役、(株)マーケティング・エクセレンス マネージング・ディレクター、(独)産業総合技術研究所人間拡張研究センター特別研究員、ストックホルム商科大学客員教授などを兼任。

青沼 君明

専任教員 ファイナンス・リアルエステート領域



経歴 東京大学大学院数理科学研究科修士課程修了(数理科学博士)。ソニー株式会社入社、三菱銀行(現、三菱UFJ銀行)入行。商品開発部にてデリバティブの商品開発とモデル構築を、融資企画部にて信用リスクの研究開発を担当(チーフクオンツ)。東京大学大学院数理科学研究科、一橋大学大学院経済学研究科、大阪大学大学院基礎工学研究客員教授や日本金融証券計量工学学会等の理事を歴任。著書『企業数理のすべて』、『Excelで学ぶ金融数学の基礎』等多数。

王 京穂

専任教員 ファイナンス・リアルエステート領域



経歴 東京工業大学経営工学科卒業。1986年同大学院修士課程修了。北京のインベスメントバンク勤務後、日本興業銀行(現みずほ銀行)入行。興銀第一ファイナンシャルテクノロジー、NTTデータを経て、2004年より本研科准教授に就任。2010年より現職。ラトガース大学客員研究員、清華大学客員研究員。研究対象はオプション理論、信用リスク、市場流動性。最近は行動ファイナンス、不動産価格、中国株式市場、機械学習の金融における応用等。

山村 能郎

専任教員 ファイナンス・リアルエステート領域



経歴 1991年東京工業大学社会工学科卒業。1996年同大学院博士課程修了(博士(工学))。1996年香川大学専任講師。2002年~2003年University of Cambridge客員研究員。2004年本研科准教授。2012年より現職。著書：『商業用不動産施設の戦略的経営』プロGRESS(共編著)、『本四豪橋と地域経済：制度利用と整備効果・政策課題』勁草書房(共著)等多数。

サントス・ミゲル

専任教員 ファイナンス・リアルエステート領域



経歴 広島大学社会科学部研究科博士(経営)。広島大学社会科学部研究科助教授、AESEビジネススクール教授を経て現在に至る。EFMD プログラム認定委員会委員(2010-2017)。

熊谷 健一

専任教員 ビジネス・ロー領域



経歴 東京農工大学工学部卒、特許庁審査官、特許庁総務部工業所有権制度改正審議室、通商産業省産業政策局知的財産政策室等で知的財産に関する立法作業に従事したのち、九州大学法学部助教授、九州大学大学院法学研究科教授、京都大学大学院医学研究科客員教授、明治大学法科大学院専任教授等を歴任し、2018年4月より現職。

中山 知己

専任教員 ビジネス・ロー領域



経歴 立命館大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学、ミュンヘン大学法学部中退(ドイツ学術交流会[DAA]奨学生)、山口大学経済学部助手・講師・助教授、教授、朝陽学院大学法学部・法科大学院教授。2007年より明治大学法科大学院教授。2018年より本研科教授。1993年度ミュンヘン大学法史研究所(文部省在外研究員)及び2013年度ベルリン自由大学法学部にVisiting Professorとして滞在。2008年よりドイツファンドブリア協会によるラウンドテーブル「不動産担保法の柔軟性、確実性、透明性」(欧米諸国及び日本の国際比較)研究に日本側代表として参加。継続中。

山口 不二夫

専任教員 アカウンティング領域



経歴 東京大学経済学部、同大学院博士課程で学ぶ。経済学博士(東京大学)。神奈川大学経済学部専任講師・助教授、青山学院大学専門職大学院国際マネジメント研究科を経て、2004年明治大学大学院グローバル・ビジネス研究科教授。会計理論学会会長。著書：『日本郵船会社史』(白桃書房)、『企業分析』(白桃書房)、『日本のビッグビジネス本田技研・三菱自動車』(共著、大月書店)、『私立大学の財政分析ができる本』(共著、大月書店)など多数。

大野 雅人

専任教員 アカウンティング領域(税法)



経歴 大阪大学法学部卒業後、国税庁に入庁。税務署長、国税局局長、在ニューヨーク総領事館領事、国税庁国際調査管理官、法務省民事局民事第一課長、国税庁国際業務課長、財務省大臣官房参事官等を歴任。ハーバード大学LL.M.(法学修士)。2011年から2019年3月まで筑波大学大学院ビジネス科学研究科教授。2019年4月から現職。

池田 義典

特任教員 アカウンティング領域(税法)



経歴 早稲田大学卒業後、国税庁に入庁。税務署長、国税局局長、税務大学校総務課長、ジョージタウン大学ローセンター客員研究員、国税庁国際業務課長、国税庁調査課長、沖縄国税事務所長等を歴任。ハーバード大学LL.M.、2020年10月から社・本郷税理士法人顧問。2022年4月から現職。

客員・特別招聘教員

林 明文 客員教授
経歴 株式会社トランスストラクチャ代表取締役CEO。青山学院大学経済学部卒業。デロイトトーマツコンサルティング合同会社に入社し、人事コンサルティング部門シニアマネージャーとして数多くの組織、人事、雇用のコンサルティングに従事。その後大手再就職支援会社の設立に参画し代表取締役社長を経て現職。著書：『合理的人事マネジメント』（2014年、中央経済社）、『人事の定量分析』（2012年、中央経済社）等



大久保 昭平 客員教授
経歴 CaN International 国際会計事務所代表。公認会計士、税理士。立命館大学卒業。早稲田大学院修士課程修了（ファイナンス）。EY新日本有限責任監査法人等を経て、現職。日本公認会計士協会東京会経営委員会委員長を歴任。『アジア進出企業の会計・税務』（2017年、清文社）、『東南アジア進出戦略』（2015年、中央経済社）他。



奥村 忠史 客員教授
経歴 山田コンサルティンググループ(株)執行役員、資本戦略事業本部事業承継担当。税理士。明治大学専門職大学院グローバル・ビジネス研究科修了。全国の企業オーナー、不動産オーナーに対して相続、事業承継に関するコンサルティング業務を行う。相続・事業承継・M&Aの分野に関する執筆、企業オーナー向け、金融機関向けセミナー講師等多数実施。



前田 祐 客員教授
経歴 山田コンサルティンググループ(株)資本戦略事業本部 事業承継事業部長。税理士。慶應義塾大学経済学部を卒業後、会計事務所勤務を経て、現職。上場企業創業者から中堅中小オーナー企業の経営者まで、クライアントの事業承継・M&Aを多数支援。その他、事業承継に関するセミナー講師や執筆を多数実施。明治大学専門職大学院グローバル・ビジネス研究科修了。



石川 明 客員教授
経歴 株式会社インキュベータ代表取締役 (https://incu.co.jp/)。大手企業におけるボトムアップによる新規事業開発に特化した専門サービスを提供し、100社2000案件以上の新規事業開発を伴走者として支援。リクルート社で新規事業開発室のマネージャーとして社内起業提案制度の事務局長を務める。2000年に総合情報サイト「All About」社の創業に参加し、10年間事業部長等を務める。著書：『Deep Skill』、『新規事業ワークブック』、『はじめての社内起業』。上智大学文学部社会学科卒、早稲田大学ビジネススクール修了。



小田 英毅 客員准教授
経歴 CaN International Groupパートナー。CaN International FAS株式会社取締役。公認会計士。京都大学経済学部卒業。有限責任監査法人トーマツ、タイでCaN International Advisory (Thailand) Co., Ltd.の立ち上げ等を経て、現職。アジアを中心としたクロスボーダー案件や国内案件に係るデューデリジェンス、バリュエーション、アドバイザリー業務に従事する。M&Aの分野に関するセミナー講師、執筆を多数実施。



大塚 久美子 特別招聘教授
経歴 1991年一橋大学経済学部卒業、(株)富士銀行入行。'94年(株)大塚家具に入社、経営企画、IR、人事、経理、商品開発などの責任者を務める。2004年大家家具を退社。翌年(株)クオリア・コンサルティング設立、代表に就任。'09年3月(株)大塚家具社長就任。'20年12月の退任まで、通算11年3ヶ月社長を務めた。退任後は(株)クオリア・コンサルティング代表に復帰。経営、組織、ガバナンス、新規事業、M&A等のアドバイスをを行う。'12年筑波大学法科大学院修了、法務博士(専門職)。



布施 努 特別招聘教授
経歴 スポーツ心理学博士。(株)Tsumoto FUSE, PhD Sport Psychology Services代表取締役。慶應義塾大学スポーツ医学研究センター研究員。慶應義塾大学卒業後、住友商事株式会社14年勤務。ノースカロライナ大学グリーンズポロ校にて北米応用スポーツ心理学学会会長グールド博士のもとで博士号を取得。スポーツ心理学の分野で20年以上の経験を持ち、主なクライアントに日本代表、オリンピックチーム、プロスポーツ選手がいる。また、スポーツ心理学をビジネス界の組織開発や人材育成に応用することでも知られる。



兼任講師

池上 健
現職：明治大学会計専門職研究科教授
担当科目：法人税法

歌代 豊
現職：明治大学経営学部教授
担当科目：戦略マネジメント

中西 晶
現職：明治大学経営学部教授
担当科目：キャリア開発

野川 忍
現職：明治大学法務研究科教授
担当科目：労働法の基礎

平田 厚
現職：明治大学法務研究科教授
担当科目：相続法の基礎

姚 俊
現職：明治大学商学部教授
担当科目：Fundamentals of Accounting

吉村 孝司
現職：明治大学専門職大学院長兼会計専門職研究科教授
担当科目：日本経済と経営

兼任講師

姉川 知史
現職：名古屋商科大学ビジネススクール教授
担当科目：ヘルスケア産業のマネジメントと経済学

石上 麟太郎
現職：弁護士
株式会社MEGURU社外取締役
担当科目：企業法務

伊藤 敬介
現職：みずほ第一フィナンシャルテクノロジー株式会社取締役
担当科目：証券投資論

大坪 英二郎
現職：公益財団法人ダイア高齢社会研究財団客員研究員
担当科目：年金マネジメント、パーソナルファイナンス

小川 晃司
現職：税理士法人BETT理事長、小川晃司公認会計士事務所 所長、小川晃司社会保険労務士事務所所長
担当科目：中小企業の会計

小川 亮
現職：株式会社ブラグ代表取締役
担当科目：デザインシンキング

小田切 尚登
現職：経済アナリスト
担当科目：金融論、Business Communication

加藤 幸人
現職：アクタス税理士法人代表社員
担当科目：ファミリービジネス概論

狩谷 真治
現職：デロイト トーマツ ベンチャーサポート株式会社 Nextcore事業部 事業開発ユニット マネージャー
デロイト トーマツ人材機構株式会社
ベンチャーサポート事業部 ヴァイスプレジデント
担当科目：ビジネスイノベーション

許 英姿
現職：明治大学会計専門職研究科兼任講師
担当科目：国際会計実務

佐藤 俊朗
現職：ジョーンズラングラサル株式会社執行役員
担当科目：グローバルCRE (企業不動産) 戦略論

信田 直昭
現職：信田インベストメント&マネジメント代表
担当科目：不動産開発論

庄司 真人
現職：高千穂大学商学部教授
担当科目：サービスマーケティング
ケース・スタディⅡ (マーケティング)

関 大地
現職：公認会計士
株式会社サイバーセキュリティクラウド常勤監査役
担当科目：知的資本戦略論

高橋 篤史
現職：高橋会計事務所代表 公認会計士・税理士
担当科目：キャッシュ・フロー・マネジメント会計

高橋 一貢
現職：UDSグループ代表
担当科目：e-マーケティング

竹之内 隆
現職：トレンド・トラップ株式会社代表取締役、合同会社 TrendERP代表社員
担当科目：オペレーション

田中 智恵子
現職：東京保健医療専門職大学院特任教授
石川県立看護大学非常勤講師
株式会社メдика代表取締役
担当科目：ヘルスケア・マネジメント、ヘルスケア・マーケティング

張 巧韻
現職：武蔵野大学グローバル学部グローバルビジネス学科 教授
担当科目：Fundamentals of Marketing

土屋 繼
現職：株式会社黒鳥社代表取締役
日本サイン株式会社社長執行役
担当科目：企業戦略論

富田 竜一
現職：富田公認会計士事務所 代表 公認会計士
担当科目：企業価値評価論

中 麻弥美
現職：株式会社コムテック22シニアコンサルタント
担当科目：ビジネス・マーケティング

中島 聡
現職：株式会社明治特別顧問、公益社団法人日本アドバタイザーズ協会専務理事、一般社団法人デジタル広告品質認証機構代表理事 等
担当科目：マーケティング環境分析

中山 季之
現職：株式会社三菱UFJ銀行上席調査役
担当科目：ビジネスのための基礎数学、Pythonによるデータサイエンティストの基礎

ペリッツァー・マルコ
現職：株式会社日本旅行・グローバルビジネストラベル代表取締役社長
担当科目：International Business

松下 光司
現職：学習院大学経済学部教授
担当科目：消費者行動論

丸田 利昌
現職：日本大学経済学部教授
担当科目：ゲーム論と企業戦略

三輪 えり花
現職：演出家・俳優・脚本家・翻訳家・表現指導家
担当科目：自己表現 (プレゼンス)

村木 信爾
現職：不動産鑑定士 不動産カウンセラー FRICS
村木プロパティサービス・イノベーションラボ代表
大和不動産鑑定株式会社シニアアドバイザー
担当科目：不動産実務・税制 (ファミリービジネス)、企業不動産 (CRE) 戦略・サービス論、論文演習Ⅰ・Ⅱ

山之口 優
現職：ブランドコンサルタント
担当科目：データドリブンマーケティング



教員詳細は
ホームページへ
https://www.meiji.ac.jp/mbs/
QR code

国際認証のMBAプログラム

経営系大学・大学院国際認証機関EFMDのEPAS認証 (現：EFMD Accredited MBA) を日本で初めて獲得

- 明治大学ビジネススクール(MBS)は、経営系大学・大学院の国際認証機関EFMD(本部：ベルギー・ブリュッセル)からEPAS認証を2018年に日本で初めて獲得し、2024年に2回目の更新を行いました。
- EFMD Accredited は、EFMD がビジネススクールの教育水準を専攻単位で認証するシステムで、対象とする専攻の国際性、カリキュラム編成、戦略性、教育・研究の質など、多岐にわたり、多国籍な専門家で構成される審査委員会による書類及び実地視察で評価が行われるものです。そして、その評価に基づき、10カ国以上のビジネススクールと企業関係者で構成されるEFMDの審査委員会が最終決定を行います。MBSが継続的にEFMD Accredited MBAとして認証を得ているのは、全学的なブランドデザインに基づき、ファミリービジネス及びスタートアップビジネスの経営教育に特化したクラスター(科目群)の設置、ILOs(教育効果達成度目標)の明確化、社会人学生を対象とした短期海外研修の単位科目設置、教員から学生への充実した指導体制などが評価されたものと考えています。
- 今後もEFMD加盟の世界各国のビジネススクールと積極的に交流、情報交換を行い、総合的な実践的教育、ファミリービジネス及びスタートアップビジネスの特化分野において、MBSで提供するMBA教育が国際基準に足るものであるという地位を確固たるものにすべく取り組んでいきます。



Association of Asia-Pacific Business Schoolsに 長年正会員として加盟

- Association of Asia-Pacific Business Schools (AAPBS) はアジア・太平洋地域のビジネススクールが相互の発展、交流を目的として2001年に設立された組織で、毎年、年次総会やシンポジウムを通じてアジア・太平洋地域の最新のビジネスの課題やビジネススクールの動向に関する情報収集し、交流を深め、関係強化を図っています。



海外研修科目(グローバル・ビジネス研究)

- MBSでは年間4科目程度の海外研修科目を提供しています。海外のビジネススクールやスタートアップ企業を訪問し、現地の教員、学生、企業経営者と積極的にディスカッションを行い、MBSで学んだ理論の実践に努めています。海外研修科目は最大2科目(4単位)まで修了に必要な単位数(46単位に)含めることができます。

※2020年度は新型コロナウイルスの影響により未実施

	研修実施国・地域				
2024年度(予定)	タイ	ポルトガル	中国	台湾	イギリス
2023年度	タイ	ポルトガル	台湾		
2022年度	タイ	ポルトガル			
2021年度	ポルトガル(オンライン)		中国(オンライン)		
2019年度	タイ	南アフリカ共和国	モンゴル国		
2018年度	タイ	オーストラリア	シンガポール	中国	インド



International Week (AESEビジネススクール)

- 2018年にMBSが国際認証EPAS(現：EFMD Accredited)を取得したことを契機として、2020年7月にポルトガルの権威あるビジネススクールであるAESEビジネススクールと覚書を締結し、学生の相互交流プログラム(International Week)を実施することを決定しました。2023年9月にMBSの学生をポルトガルのAESEビジネススクールに派遣、2024年2月にAESEビジネススクールの学生を本学にて受け入れて研修を行いました。
- International Week at AESE, Portugal
渡航前の事前学習としてケースメソッドを用いた授業を行いました。ケースメソッドとは、実際の企業において発生した経営レベルの課題について、その意思決定のあり方や具体的な解決方法について履修者の間で討議を行い、企業経営を疑似体験する教授法です。AESEビジネススクールでは、ケースメソッドが多く用いられていることから、英語によるケースの思考法を事前に学習しました。
その後、AESEビジネススクールに派遣された学生は、同校のExcelling in Leadership Executive MBA Intensive Week Programmeの履修を通じて積極的な議論を行いました。AESEビジネススクールの学生をはじめ、他のビジネススクールからも多くの学生が参加し、AESEビジネススクールの姉妹校のIESEビジネススクールでも実践されるケースを用いた学習を行いました。
- International Week at Meiji, Tokyo
AESEビジネススクールから学生を受け入れ、MBS主催によるプログラムを実施しました。「日本式経営、日本文化への理解」をテーマに、本学他学部からも多くの教員を招くとともに、ポルトガル大使の講演、神田明神訪問、企業訪問など多岐にわたる授業を展開しました。

MBSには、修了生が運営するMBSネットワーク(MBSN)と、在学組織のMBSN現役運営委員会があります。相互交流や親睦、連携、学習の場を継続的に提供することを目的にさまざまな活動を行っています。



MBSネットワーク (同窓会)

ホームカミングデー

毎年、MBSN主催の「ホームカミングデー」を開催します。OBOG・専任教員・在学が参加し、講演や親睦会を、また、教員・修了生による講演会を行います。修了後も学び続けることの重要性を再認識し、継続学習や研究への関心を高めることに役立てることができます。

MBS在学は2年間と短いのですが、修了後も様々なイベントを通じて、MBSが一生涯の財産となるよう、今後も年に1回集います。



MBSN現役運営委員会

ウェルカムパーティー／修了記念パーティー

新たにMBSに入学した新入生と交流を深める場として「ウェルカムパーティー」を開催します。在学のみならず、教員や修了生も出席し、これからのMBSをともに盛り上げていく新入生の入学を祝います。

また、修了式シーズンには、「修了記念パーティー」を開催します。修了生たちはアカデミックガウンに身をつつみ、今後の決意表明や2年間の学生生活を振り返り、改めてMBSで培った友情や絆を互いに約束し合い、羽ばたいていきます。



ファミリービジネス・スタートアップビジネス懇談会

定期的にファミリービジネスとスタートアップビジネスの2つのクラスターの学生、修了生などが集まり、パネルディスカッション等を含む懇談会を実施しています。同じ目的を持った学生、修了生、そして教員が集まり、多角的な視点から議論を展開する場を設け、知識の共有化を図っています。

MBS部活動

明治ファミリービジネス部

会社経営に影響のあるメンバーが多数在籍するMBSにおいて、ファミリービジネス経営に特有の課題の解決策、ファミリービジネス企業の発展に関わる情報・ノウハウを共有する「場」を提供することを目的に設立しました。事業継承などの相続対策や節税、資金繰りなどさまざまなセミナー勉強会を頻繁に実施しています。社長とのつながりが最も多い部活である利点を勉強会や懇親会で最大限活用しています。単なる勉強で終わらず、経営者や経営者に影響力のあるメンバーを通じて実務で日本の同族企業の発展を支えることを大きな目的としています。



MBS C3 (Case Competition Club)

MBS Case Competition Club (通称: ケース部) は、2014年11月に設立された部活動です。ケース部では国内外のビジネスコンペティションへの参加、毎月テーマを決めたディスカッションや顧問の藤岡先生による勉強会などを行っています。2023年度ジャパンビジネスケースコンペティション大会においては、3年ぶりに本選出場を果たしました。ケース部の活動を通して、MBAの知識を実践的に定着することができMBS内の人的ネットワークも広がります。



中国語勉強会

2015年5月、MBS在学中の中国人留学生が中心となって設立した、中国語学習やビジネス交流を目的とする勉強会です。日本人とMBS在学留学生によるコミュニティで、学内での中国語学習(中国語の検定テストも含む)や、学外での中国文化特別講義等、様々なイベントを企画し、活動しています。

都心ならではの恵まれた立地に、最先端を行く充実の施設

MBSは、明治大学駿河台キャンパスに設置されています。
多忙なビジネスパーソンが学ぶにふさわしいロケーションであり、
その設備等にも各種の配慮がなされています。

キャンパス

抜群のアクセスを誇る駿河台キャンパス

MBSの置かれた駿河台キャンパスは、伝統ある明治大学のまさに本拠地。授業は「社会に開かれた生涯教育の拠点」がコンセプトの「アカデミーコモン」にて行われます。地上11階・地下2階の校舎に充実した最新設備を備えています。JR線のほか地下鉄が5線以上利用可能と、交通アクセスは抜群です。忙しい毎日を送っているビジネスパーソンも負担なく通学できるロケーションです。また、アカデミーコモン内では「無線LAN接続サービス」を利用することができます。



院生共同研究室

ネット時代に対応した院生共同研究室（14号館）

MBSの院生共同研究室（自習室）は、全座席にPCコンセントを取付け、大学院生が常時PCを利用できるよう整備されています。また、インターネットによる情報検索や図書館蔵書検索、オンラインジャーナル及び外部データベース検索も自由にできるようになっています。さらに、ロッカー、コピー、オープンプリンタサービスも完備しています。（開室時間7:00～23:00）



図書館（駿河台キャンパス）

260万冊の蔵書を誇る図書館

明治大学各キャンパスにある図書館の蔵書数の合計は、260万冊を数えます。そのうち駿河台キャンパスにある中央図書館（面積12,485㎡、座席数1,278席）は、120万冊の蔵書と16,000種の新聞・雑誌をはじめ、マイクロ資料、CD-ROMなどのデジタル資料も充実した、知の一大ギャラリーです。目録情報のデータベース化によりOPAC（蔵書検索システム）が利用可能で、また、図書館が基幹データベースとして位置付けるLEXIS-NEXISをはじめとする各種学術情報データベースも利用できます。



入学試験情報

■ 募集人数

85名（Ⅰ期・Ⅱ期・秋季の合計）

■ 選抜方法（A方式、B方式共通）

- (1) 書類審査（研究計画書等提出書類）
- (2) 面接（一人15分程度）

■ A方式 一般入試（社会人選抜）

入学の1年前時点において、24歳以上かつ職務経験（学生の傍らのアルバイトを除く）2年以上。

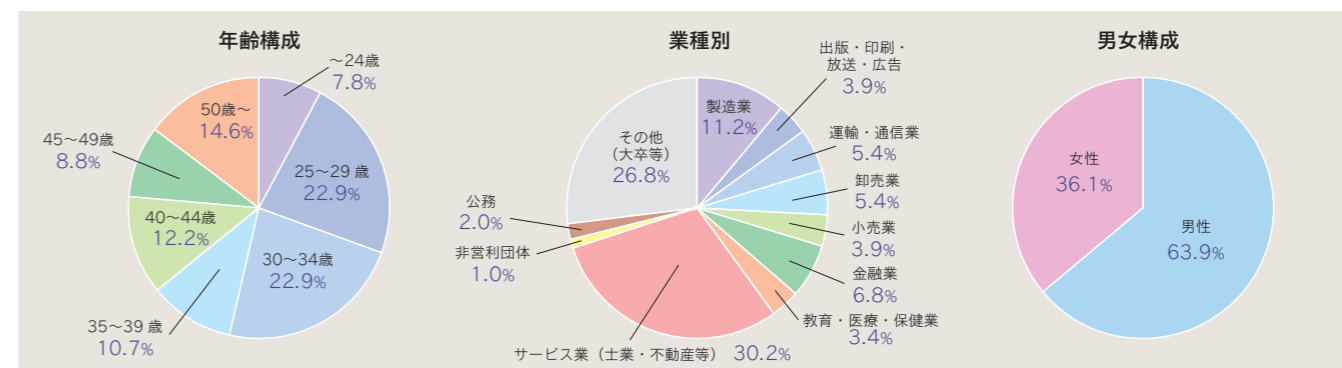
■ B方式 一般入試（上記、条件を満たさない者）

試験日程

入学時期	4月入学		9月入学
入試日程	Ⅰ期入試	Ⅱ期入試	秋季入試
使用言語	日本語	日本語	日本語または英語
試験日	11月中旬頃	2月中旬頃	7月中旬頃
出願期間	10月中旬～下旬	1月中旬～下旬	6月下旬～7月初旬

※詳細は研究科ホームページをご確認ください。

2023年度 在籍者データ



学費等

	2年間合計
入学金	200,000円
学費	2,600,000円
教育充実料	460,000円
学生健康保険互助組合費	6,000円
合計	3,266,000円

※学費と教育充実料は半期ごとの分納です。

企業等派遣による入試制度

■ MBSで実施している各期入学試験において、企業等派遣制度を実施しています。本制度にご関心をお持ちの企業・団体様は、お気軽に問合せください。

■ 企業等派遣の定義

- (1) 受験する者が、派遣される企業・団体に所属していること。
- (2) 受験する者が合格した場合は、派遣する企業・団体が学費等を全額負担し、本研究科に派遣すること。

■ 出願書類 派遣証明書

■ その他 選抜方法・日程は、通常の試験と同様です

寄附講座・奨学金

■ 寄附講座一覧

MBSは、ビジネス最前線の知識やスキルを積極的に教育に反映させ、学生へ積極的に還元すべく、企業様に寄附講座を開催いただいています。

- トランストラクチャ寄附講座「人事の定量分析論」
- 山田コンサルティンググループ寄附講座「事業承継・M&A・資産承継の税務」
- CaN International 寄附講座「Strategy for CFO and M&A Accounting」

■ 公開レクチャー

MBSでは、年間を通じて公開イベントを開催しています。社会情勢の応じたタイムリーな内容の公開セミナーや、実務において最前線で活躍している特別招聘教授による講義、パネルディスカッション形式のシンポジウムなど、内容は実に多彩です。一般の方も無料で参加可能ですので、興味のある方はぜひご参加ください。詳細はホームページをご確認ください。

■ 奨学金一覧

奨学金名称	種別	奨学金支給額	備考
明治大学グローバル・ビジネス研究科給費奨学金	給費	年額650,000円	・採用人数年間15名程度 ・最大2年間支給（2年次継続審査あり） ・入学試験成績等をもとに選考します。
日本学生支援機構第一種奨学金（無利子貸与）	貸与	月額50,000円又は88,000円	卒業後無利子返還（最長20年以内）
日本学生支援機構第二種奨学金（有利子貸与）	貸与	月額50,000円～150,000円	・卒業後有利子（上限3%） ・元利均等割賦返済（最長20年以内）

※応募や支給決定には要件があります。詳細はお問合せください。
※留学生を対象とした奨学金については別途お問合せください。

■ 専門実践教育訓練給付金

MBSは厚生労働省が指定する専門実践教育訓練の指定講座です。所定の要件を満たす方が、正規生として入学し、かつ必要な要件を満たした場合に、支払った教育訓練経費の一部が、最大112万円が支給されます。詳細は所管のハローワークへお問合せください。

科目等履修生制度

■ 科目等履修生（単科生）制度

目的

専門職大学院科目等履修生制度は、生涯学習の推進を図ること等を目的として、社会人等に対する学習機会を拡大する観点から設けられた制度です。本専門職大学院に開設されている特定の授業科目を履修して、一定の単位を修得することができます。

本研究科では、正規課程の学生の学修に妨げのない限り、選考の上、特定の講義科目の履修を許可しています。なお、1年間に履修できる単位数の上限は10単位（5科目）です。

■ 科目等履修生として入学するメリット

その1 MBS入学前に実際の授業を体験可能

本格的にスタートをする前に、科目等履修生（単科生）として実際のMBSの授業を受けたいうえで、入学を検討することができます。また、実際にMBSへ通うことで通学後の生活のイメージをすることにもつながります。

その2 修得した単位はMBA取得に必要な単位として認定

MBSへ入学前に科目等履修生（単科生）として修得した単位は、10単位（5科目）を上限として、修了に必要な単位数に算入することができます。これにより正規生として入学後も時間的に余裕をもって学ぶことにつながります。お仕事忙しい方には特におすすめです。

その3 明治大学の図書館等の施設を利用可能

科目等履修生（単科生）は豊富な蔵書を誇る明治大学の各キャンパスの図書館等の施設を利用することができます。

■ 科目等履修料

入学金	20,000円
履修料	1科目（2単位）71,000円 （当研究科修了生は36,000円）

※前年度または当該年度春学期からの科目等履修継続の場合は不要。
※本学卒業生又は修了生の場合は半額。

■ 出願期間

春学期科目3月中旬／秋学期科目8月下旬

※募集要項は2月中下旬頃にホームページに公開します。

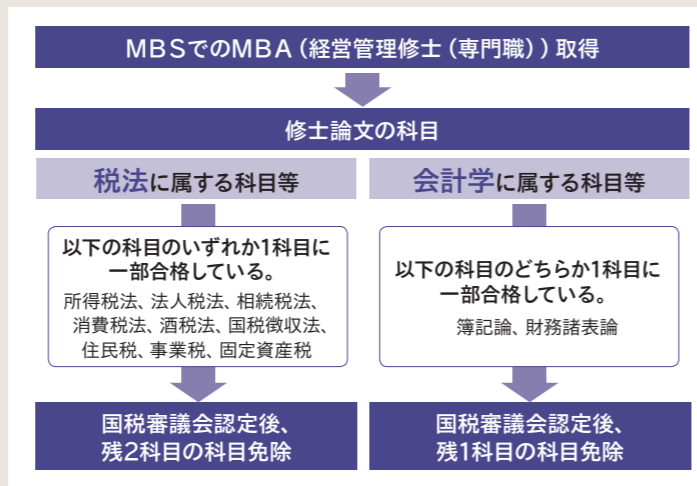


■税理士試験 試験科目一部免除制度

■MBS修了で税理士試験の試験科目一部免除申請が可能

MBSでは、「経営の分かる税理士」の育成を目指し、税理士試験の科目免除制度への申請制度を有しています。税理士試験の分野（税法科目、会計学科目）ごとに、いずれか1科目の試験で一部科目合格した者が、その科目に関する研究によりMBA（経営管理修士（専門職））の学位を取得し、国税審議会の認定を受ける制度です。国税審議会から認定を受けた場合には、税法科目であれば残り2科目、会計学科目であれば残り1科目に合格したものとみなされて試験が免除されます。

※注 試験科目免除は国税審議会への申請と科目認定を前提としています。当研究科でのMBA取得、修士論文の提出が直ちに試験科目免除となるものではない点にご留意ください。

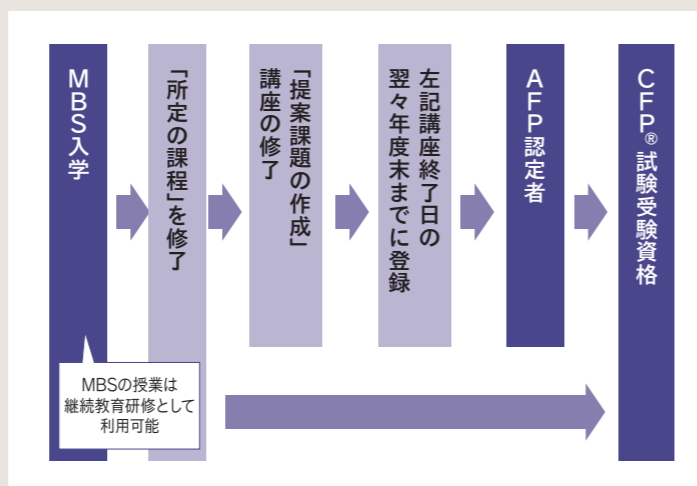


■CFP®認定教育プログラムの提供

■「所定の課程」修了でCFP®資格審査試験の受験が可能

MBSは「CFP®認定教育プログラム」を実施する大学院の一つです。MBSで「所定の課程」を修了することで、本来必要なAFP認定を経ることなく、CFP®資格審査試験を直接受験することができます。ただし、課程修了日より7年以内に全6科目に合格しない場合は、受験資格が失効しますのでご注意ください。

また、MBSで実施する授業を、CFP®資格・AFP資格の更新に必要な「継続教育単位」として申請することが可能です。すでにCFP®資格・AFP資格を取得済の方も有効に受講いただくことができます。



※各資格試験の詳細に関しては、研究科ホームページをご確認ください。

修了生紹介ページ



MESSAGE

01



左向 貴代

プロフィール 株式会社ディー・エヌ・エー オートモーティブ事業本部 アソシエイトディレクター
旅行会社、政府観光局において旅行業界のマーケティングを経験後、自動車メーカーにて車両情報を活用したビジネス企画、技術戦略、技術広報に従事。現在は、新たなモビリティサービスの実現に向けたビジネスエコシステムの構築に取り組んでいる。2018年4月より慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科博士後期課程在学。

◆MBSを選んだ理由、目指した理由

製品をモノとして提供するのではなく、サービスとして提供する動き、いわゆる製造業のサービス化が広がりはじめています。自動車の業界においても、クルマを個人で持つことにこだわらず、カーシェアリングなど必要な時に利用できる仕組みが急速に広がるなど、人々がクルマを求める価値が変化しています。さらに、技術革新により、電気自動車や自動運転が現れるなど、クルマ自体も変化しています。こうした背景から、今後、自動車業界においてもサービス化が急速に加速することが予測されます。「サービス化が進んだ世界に乗り遅れないよう、必要な知識やスキルを身につけ、クルマの新たなサービスビジネスを創りたい」、これが、私がMBAを目指すことを決めた理由です。

また、MBSには5つの専門領域があります。マーケティング領域には、サービス・マーケティング、ブランドマネジメント、ビジネス・モデル創造、チャンネルロジスティクスなど、さまざまな専門性を持った教授が揃っています。このように、ひとつの領域で複数の角度から刺激を受けながら学べるという点もMBSの大きな魅力です。

◆受験者へのメッセージ

MBAといえば大企業や大手コンサルティング会社に勤務している人が多いというイメージがありましたが、MBSには、企業組織の中で働く人ばかりでなく、個人で飲食店などを経営する人や海外からの留学生など、幅広いバックグラウンドを持った人が集まっています。一つの場所にこれだけ多様な人材が集まり、相互に学べる場はとても貴重だと思います。MBSで共に成長できることを願っています。

MESSAGE

02



前島 司

プロフィール 株式会社せたが屋 代表取締役 社団法人 日本ラーメン協会理事長 1962年生まれ。東京都出身。2000年に東京環七に独学で、らーめん「せたが屋」を開業。ラーメンニ毛作やネクスブランドなどの数々の話題を生み出しラーメン界のエポックメイキングに、ミスターラーメンと呼ばれる。2007年にはニューヨークに進出、ラーメングローバル化の先陣をきる。2016年に吉野家ホールディングスとの資本提携を果たし、更なる成長を図る。

◆MBSを選んだ理由、目指した理由

2000年に、私は個人的に大好きであったラーメン店の経営を始めました。ラーメンが国民食ともはやされ、やがてラーメンがグローバルに成長、発展していくと共に、自店の店舗数、従業員数が増え、パバママショップから中小企業へと発展しました。その過程で自分を取り巻く環境に変化が起きました。そこで、自分のキャパシティに限界を感じながらも、ラーメンの可能性を感じているからこそ、成長、拡大路線に舵を切ることになりました。ナレッジマネジメントの必要性を感じ、マーケティング、戦略、財務、人材管理を学ぶためにビジネススクールを目指しました。

MBSを選んだ理由は、明治大学というブランド力、故青井先生の「枠にとらわれないマーケティング」を学びたかった事やアクセス性の良さなどが挙げられます。

◆受験者へのメッセージ

MBSには、充実した講師陣とカリキュラムがあります。ディスカッション中心に進められる授業は生徒同士の一体感も生まれ、アクティブに学べます。在学中はもとより、修了してからも生徒同士の交流も盛んで、ここから新たなビジネスのスタートアップも生まれます。自分の人生にも大きくレバレッジがかり、成長していく、そんな空気感もMBSの魅力ではないでしょうか。

MBSで構築されたものは一生の財産になるのです。

MESSAGE

03



王 雅雯

プロフィール 株式会社サンエイテック所属。2010年に中国の蘇州大学卒業後、1年間日本語を勉強し日本に就職。2011年日本の精密機械専門会社であるサンエイテックに入社。4年間海外で勤務。在職中の担当業務は、中国とシンガポールの子会社や各国代理店と日本本社間のコミュニケーション促進、海外顧客来日時の通訳、市場状況の調査分析などを担当。

◆MBSを選んだ理由、目指した理由

在職中、私の会社の業態は大きく変わりました。それまでは専門商社でしたが、新しく中国の蘇州に製造工場を設立し、そこで製造された製品を日本に輸入して販売する製造業兼商社という形に転換しました。現在、会社では、新しい業態に対応するため様々な施策が計画され、実施されています。これからの戦略はどうあるべきか、どのようなリスクがあるか、主要な優先課題は何かなど、継続的に検討されています。私はMBSにおいて、グローバル経営の観点から、製造管理、販売、ファイナンス、マーケティング、人事など幅広い知識、思考を習得し、復職後、会社の更なる発展に貢献したいと考えています。

経営に必要な多種多様な授業科目があることに加え、実際に就業経験のある多くの先輩社会人との討論や実践を通して、勤務先が求めている実践的な「知識」、さらに「組織を束ね変革をリードしていく能力」など経営に必要な専門知識を習得することができると考えました。

◆受験者へのメッセージ

入学の目的は経営の専門知識を学ぶことでしたが、入学してからは教科書だけではなく優秀な先輩たちと一緒に勉強することで、ビジネスについてはもちろん、組織のあり方、リーダーシップ、さらに世界経済に対する考え方など、多くの学びを得ることができました。クラスメイトは、課題の解決に苦勞している私をいつも優しく励ましてくれます。国籍や仕事が変わっても、勉学を通して友情を育むことができることを知りました。また、どの先生も指導に熱心で、どんな質問にも答えてくださいます。MBSは、夢や希望、目的を持つ人、向上心のある人を最大限サポートしてくれます。そんな私から受験生のみなさんへのメッセージは、「明確な目的をもって入学してください」ということです。自分が何をしたいのか、ぼんやりとしかわからないのでは、せつかくの貴重なリソースも無駄になります。逆に、目的がはっきりしてさえいれば、いくらでも向上することができます。もっと大きく成長したい方、一緒に頑張りましょう！